

安全の構造

国際医療安全推進機構(MSPO)理事長
酒井亮二

「事故やミスが起きない場合、その活動状態は安全である」という極めて明確な定義がある。

しかし、ある活動が永遠に安全である、事故が起きない、と言い切ることは極めて困難なので、ある活動が絶対に安全であると断言することはできない。元来摩訶不思議な人体においては将来に何が起きるかを完全には予測できない。従って、ある活動の安全度は確率としてしかとらえられない。ではどうすれば不確実な安全性を向上できるのか？ それに対する回答の 1 つは、どのような状態の時に安全が向上するかを検討する方法と思われる。

物が倒れる原因は色々あるが、1 つの縦棒は倒れやすい。3 角、4 角と支柱が増えると倒れにくい。すなわち、外圧に対するシステムの強度が、安全を向上させる。活動の強度が安全をもたらす 1 つのパラメーターと言える。

物質自体の崩壊による事故も存在するので、物自体の強度が安全には必要である。したがって、システムを構成する要素自体の強度も安全をもたらす 1 つのパラメーターである。このことから、ハイリスクの現場では、そこで働く個人にはきわめて高い強度が求められる。ハイリスク活動では、安全に対する強い関与度が不可欠となる。

また、不確実性の高いハイリスク活動では、集合によって耐性が向上する。連携、相互点検などの活動の協働性も安全をもたらす 1 つのパラメーターと言える。

風船のような柔軟な形状はその物理的圧力に対して安全度が高まる。このことから、活動状態の柔軟度が安全をもたらす別のパラメーターと言える。予測不可能性の高い医療現場では、予期せぬ危険事態に対する対応の柔軟性が安全を高める。つまり、杓子定規な決まりことでは当てはまらない柔軟な対応が必要になる。それが、活動の復元力(レジリエンス)を高める。安全のためには活動の柔軟性が必要と言える。

的確性、迅速性、識別性、経済性、、安全は様々なパラメーターに依存している。しかし、多様なパラメーターの集合は活動の複雑性を増幅し、ために安全性を低下させる。活動の簡便性も安全をもたらす 1 つのパラメーターである。優先順位、IT など視点を踏まえた活動のスマート化が安全性を向上する。